

令和2年度 知立南中学校学校評価の結果について

昨年度と同じように生徒を対象にしたアンケート結果も参考にして、保護者の皆様に実施した。アンケート回収率は 87.5%(83.9%)である。評価の基準は、「成果が現れた・あてはまる」と「どちらか」として成果が現れた・どちらか」としてあてはまる」の合計を評価Aとして、その割合(%)を基に、次のように5段階で示した。評価Aは「4」と「5」の合計。()内は上から昨年度、一昨年度の結果。

0～20%…1 20～40%…2 40～60%…3 60～80%…4 80～100%…5

*の内容は、生徒評価と教員評価だけの項目

網掛けは評価Aが3以下 下線 は、次年度への課題

1 確かな学力の育成について

	(生徒評価)	(保護者評価)	(教員評価)
①先生は、生徒にわかりやすいように、工夫した授業をしている。	4 60.5% (3 56.4%) (3 57.5%)	4 66.4% (3 57.8%) (3 53.5%)	5 100% (4 89.5%) (4 73.0%)
②先生は、生徒に家庭学習がしやすいように家庭学習で取り組むことを示し、きちんと指導している。	<u>4 73.0%</u> (4 76.1%) (4 76.4%)	<u>4 63.9%</u> (3 57.3%) (3 55.7%)	4 62.9% (3 57.9%) (3 45.9%)
*授業では、発言や発表をしようと取組んだ。(生徒) *発言を促す授業づくり、発問の工夫をした。(教員)	<u>3 51.9%</u> (3 49.7%) (3 53.7%)	/	4 77.1% (4 76.3%) (4 70.3%)
総合的な評価	3.8 (3.2)		4.3 (3.7)

2 豊かな心の育成について

	(生徒評価)	(保護者評価)	(教員評価)
④先生は、進んであいさつができる生徒を育てている。	5 89.5% (5 85.8%) (5 86.0%)	5 81.1% (4 71.9%) (4 75.9%)	5 94.3% (5 84.2%) (5 86.5%)
⑤先生は、生徒に時間や規則を守ることの大切さを指導できている。	5 88.4% (5 88.3%) (5 89.7%)	5 85.0% (5 84.4%) (5 82.4%)	5 97.1% (5 97.4%) (5 91.9%)
⑥先生は、生徒にいじめや差別がいけないことだときちんと指導している。	5 86.5% (5 80.6%) (5 82.8%)	5 84.3% (4 75.6%) (4 67.1%)	5 100% (5 97.4%) (5 89.2%)
⑦先生は協力できる学級づくりに努めている。	4 70.6% (4 67.3%) (4 67.7%)	5 84.5% (5 83.9%) (4 72.3%)	5 94.3% (5 86.8%) (4 73.0%)
⑧先生は、生徒に思いやりの心や命の大切さを指導できている。	5 84.6% (5 80.8%) (4 73.4%)	5 81.3% (5 80.3%) (4 73.9%)	5 97.1% (5 89.5%) (5 81.1%)
⑨先生は、行事を充実させ、生徒に感動体験や成就感を味わわせている。	<u>5 82.3%</u> (5 88.7%) (5 88.9%)	<u>4 66.3%</u> (4 78.3%) (4 70.8%)	5 82.9% (5 81.6%) (4 75.7%)
*生徒会や委員会活動に積極的に取り組んだ。(生徒) *当番活動を責任をもち行動することの指導。(教員)	5 80.6% (4 79.2%) (5 80.5%)	/	5 88.6% (5 82.6%) (4 78.4%)
総合的な評価	4.8 (4.6)		5 (5)

3 健やかな心身の育成について

	(生徒評価)	(保護者評価)	(教員評価)
⑪先生は、生徒を理解しようとしてよく努めている。	4 73.8% (4 75.4%) (4 71.8%)	4 79.6% (4 76.1%) (4 69.6%)	5 100% (5 92.1%) (5 89.2%)
⑫先生は、生徒が部活動で有意義に過ごせるようにしている。	5 89.1% (5 86.3%) (5 89.0%)	4 71.7% (4 66.0%) (4 64.2%)	5 80.0% (5 84.2%) (4 75.7%)
総合的な評価	4.3 (4.3)		5 (5)

4 安全な学校づくりについて

	(生徒評価)	(保護者評価)	(教員評価)
⑬先生は、PTAや学校ボランティア等と協力して生徒の安全や事故防止などによく配慮している。	5 91.2% (5 93.6%) (5 91.0%)	4 74.6% (4 76.4%) (4 74.6%)	5 97.1% (5 97.4%) (5 89.2%)
⑭先生は、清掃などを通して教育環境整備に努めている。	5 85.6% (5 81.4%) (5 80.4%)	4 79.4% (4 73.7%) (4 70.8%)	5 94.3% (5 94.7%) (4 64.9%)
⑮先生は、生徒が安心して通うことができる学校づくりに力を注いでいる。	5 83.8% (4 79.1%) (4 78.8%)	5 83.8% (4 79.6%) (4 73.9%)	5 97.1% (5 89.5%) (4 75.7%)
⑯先生は、生徒が学校で体調が悪くなった時やけがをした時に、適切な対応をしている。	5 88.2% (5 82.0%) (5 86.3%)	5 86.6% (5 86.4%) (5 81.2%)	5 94.3% (5 97.4%) (5 91.9%)
総合的な評価	4.8 (4.5)		5 (5.0)

5 信頼される学校づくりについて

	(生徒評価)	(保護者評価)	(教員評価)
⑰先生は生徒が将来の進路や生き方(キャリア教育)について体験学習や情報提供をして指導している。	4 66.6% (4 66.8%) (4 60.8%)	4 66.8% (4 64.2%) (4 61.4%)	5 82.9% (4 76.3%) (4 72.9%)
⑱先生は、親の相談に適切に応じている。		4 73.4% (4 77.9%) (4 69.4%)	* * *
⑲学校だよりや学年だよりなどで、学校のことがよく分かるように保護者に伝えている。		5 81.4% (4 77.3%) (4 77.7%)	* * *
⑳学校は、授業参観や行事、懇談会など保護者が来校しやすい機会を適切に設けている。		4 77.8% (5 85.9%) (5 83.2%)	* * *
*地域行事に1つでも参加した。(生徒) *地域行事に参加することを指導した。(教員)	* (4 52.5%) (4 65.2%)		* (3 55.2%) (2 37.8%)
総合的な評価	4.2 (4.2)		

【アンケート結果より】

◎ 昨年度よりも5ポイント以上上がった項目。(教員は10ポイント以上)

[生徒] ⑥いじめ・差別 ⑯安全への配慮

[保護者] ①あいさつ ⑥いじめ・差別 ⑪わかりやすい授業 ⑫家庭学習
⑭部活動

[教員] ①あいさつ ⑪わかりやすい授業

◎ 昨年度よりも5ポイント以上下がった項目。(教員は10ポイント以上)

[生徒] ⑫地域行事

[保護者] ⑫地域行事 ⑩学校行事参加

【生徒アンケート結果より】

1 回収率 93.9% (昨年度90.6% +3.3%)

2 集計結果

(1) A全体が80%以上 <12項目>

1 あいさつ 2 服装や身なり 3 安全な登下校 4 清掃 5 学校へ楽しく
6 いじめの悩みなし 8 道徳 10 学校行事参加 14 部活動
15 安全への留意 16 生徒会、委員会

(2) A全体が60%以上80%未満 <5項目>

7 学級の問題解決 9 悩み相談 11 わかりやすい授業 12 提出物
13 キャリア教育

(3) A全体が60%未満<1項目>

17 発言や発表 ⇒授業の在り方を見直す必要がある。

3 各項目の昨年度との比較

(1) + <12項目>

1 あいさつ 2 服装や身なり 4 清掃 5 学校へ楽しく
6 いじめ 7 学級の問題解決
8 命の教育 11 わかりやすい授業 14 部活動 15 安全への留意
16 生徒会、委員会 17 発言や発表

(2) - <4項目>

3 安全な登下校 9 悩み相談 10 学校行事 12 提出物

(3) ±0 <1項目>

13 キャリア教育

4 考 察

○あいさつを自分から進んでできている(「あてはまる」)と自信をもって回答している生徒が昨年度は4割程度だったが、6割程度に増加している。今後も、場に応じた態度をとることができるさわやかな南中生を育てていきたい。

○清掃時間に集中して取り組む姿が多く見られ、自分たちの生活の場を自分たちできれいに保つことができている。しかし、学年によってやや差が見られるため、生徒の頑張りを認めながら達成感を感じることができるよう支援していきたい。

○道徳の時間に関する項目では、一昨年度比+11.1%となっており、相手の立場や気持ちについて考える機会が確保できていることがわかる。さらに、授業で広め高めた考え方を、日々の生活に生かすことができる実践力を身につけられるように、学びと生活を結びつける支援をしていきたい。

○病気やけがをしないように健康・安全に留意したと回答した生徒が、大きく増加した。コロナウイルス感染症による意識の向上が大きく影響をしている。手洗い、うがいなどがしっかりと習慣化できるように今後も声をかけていきたい。

△学校が楽しいと回答する生徒が増えているが、どの学年も1割程度の生徒は楽しいとは感じていない。同様に、いじめについて昨年度と比較し改善していることがうかがえるが、依然1割程度はいじめに関する悩みを感じていることがわかる。学級・学年・部活動などでよい雰囲気作りに心がけ、生徒に寄り添いながらひとりひとりの表情の変化などに気を

配り早期対応を心がけたい。

△先生は悩みや相談に親身になって応じてくれたという設問に対して、昨年度と比べ「わからない」と回答する割合が増加している。臨時休業等の影響で、個々の生徒とじっくり話をする機会が例年よりも減少していることも影響していると考えられる。みなみでのやりとりや普段の対話、教育相談等、様々な手段で日々の生徒とのやりとりを大切にしていきたい。

△学級や学年の活動や取り組みに進んで参加できたという生徒が減少傾向にある。今年度は行事や体験活動などを縮小、廃止せざるを得ない状況であった。そのため、集団で協力して一つの目標に向かって取り組む体験が少なくなっている。できる範囲で集団で取り組む経験を設定できるように配慮していきたい。

●交通安全に関する項目で、学年が下がるにつれて結果が悪くなる傾向が見られた。本校の通学路には、狭い道路や交差点、交通量の多い道路、八ツ田小と知立南小の児童の通学路との重なりなど、心配される場所が多くある。生徒が被害者にも加害者にもならないように、情報や地域からの声を適宜伝え、公共の道路を使っている意識を高めるなど、常に注意喚起をしていきたい。

●授業で発表発言をしようと取り組んだという生徒は、学年が下がるほど割合が減少している。学校全体でも低い割合であった。本年度に限っては、コロナウイルス感染症による休業期間の遅れを取り戻すため、感染拡大を防ぐために話し合い等の活動が制限されていたためなど、コロナの影響を受けていることも考えられる。このようなコロナ渦でも、生徒が主体的に学ぶことができるように、自分自身で考え、その考えを整理し、まとめる力を身につけられるような授業を展開していきたい。また、興味関心をもたせ意見を言いたくなるような授業づくりを心がけたい

●わかりやすい授業という項目では、昨年度よりも改善傾向にはあるものの、まだ3～4割の生徒にとってわかりやすい授業にはなっていない。プラス面としては、各教室に大型モニターが設置され視覚的な資料を活用する授業が増えたことや1、2年生の少人数での授業などが考えられる。「わかった・できた」が生まれる授業をめざして改善をしていく必要がある。教師のやりたい授業でなく、生徒にとって必要なる授業となるように心がけていきたい。

全体的に落ち着いた学校生活を送れているが、まだまだ学習面での課題はある。特に、主体的な学びを意識し授業改善に取り組みたい。コロナ渦ではあるが、生徒にとってかけがえのない中学校生活を大切に、日々の指導、支援を心がけていきたい。

ば成果が表れた」の割合の方が上回っている。地域の方から、学校外では進んであいさつができないという声も上がっていた。改善傾向であることは確かなので、今後も学校全体でさわやかで気持ちのよい学校づくりを心がけていきたい。

- 今年度、－（2ポイント以上）になった項目は、コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている。行事や体験的学習を例年どおりに実施できず、実体験や協同的な学びが不足した点、当初の予定どおりにはいかなく、中止や延期とせざるを得ないことが多く、学校の様子を十分に発信したり、見てもらう機会を設けたりすることができなかつた点が原因となっている。これからも、現状でできうる活動の工夫や例年以上に家庭と連携できるような手段を常に心がけていきたい。

観点1「確かな学力の育成」

- ア 生徒評価の①「工夫した授業」については、コロナ禍において体験的な活動や協同的な学びをなかなか実施できないなかであったが、過去5年間55%前後で推移していた数値が、本年度は60%まで増加した。大型テレビ導入や教師用タブレットなど整備されたICT機器の有効活用によってユニバーサルデザイン的な支援が充実してきていることが要因の一つであると考えられる。今年度末には、生徒一人一人にタブレットが整備される。今後はこのタブレットをいかに有効活用するかが課題である。従来の授業に、道具としてのタブレットをどのように活用していくかを研究し、主体的に学習に取り組む生徒の姿を引き出したい。また、学習内容の定着化をめざした授業改善にも取り組んでいきたい。
- イ 項目②「家庭学習の取組」については、保護者評価と教員評価ともに昨年度より若干増加したが、まだ60%台前半である。各学年で長期休業中の課題テキストを選択制にするなど、個に応じた工夫を始めている。今後も家庭学習がより効果的に実施ができるように改善に取り組み、基礎学力アップにつながるよう考えていきたい。

観点2「豊かな心の育成」

- ア 項目④「あいさつのできる南中生」については、生徒・保護者の評価ともにこの5年間で最高の値となった。実際に、登下校や校内で進んであいさつをしよう意識している生徒が増えていると実感している。しかし、校外に出ると地域の方に進んであいさつができているとは言えない。生徒とともに教員の意識をさらに向上させて、いつでもどこでもさわやかなあいさつができる知南中になるよう努めていきたい。
- イ 項目⑥「いじめや差別」については、保護者評価が5年間で15%増加している。「安心して通わせられる学校」となるよう、継続して努力の大切さを感じている。今年度については、生徒および保護者の評価はともに85%前後で、不安を抱えている割合が10%程度であることがわかった。不安を抱える生徒にとって安心できる学校となるように、生徒に寄り添い、みなみ（日記）や教育相談等を活用しながら生徒理解に努め、早期発見早期対応を全職員で共通認識し、日々の教育活動を進めていきたい。
- ウ 項目⑧「思いやりの心や命の大切さ」においては、生徒と保護者の評価がこの3年間で10ポイント程度増加している。道徳の教科化により、授業の見直し、改善を行ってきた成果が表れていると感じる。体験活動や協同的な学びに制約があるなかで、自分事として考え、意見をもつこ

とができる道徳の授業づくりを心がけていることが、主体的に考え、学ぶ姿につながっていると考えられる。今後も、そのときの状況に応じて対話的で協同的な学びを取り入れながら、自分ごととして考えられるような授業を目指していきたい。

エ 項目⑨「行事で育つ南中生」では、生徒、保護者ともに評価が大きく下がっている。これは、コロナウイルス感染症の影響により、学校行事を中止や縮小したことが大きな要因であると考えられる。これからも、何よりも安全を第一に考えながら、達成感、充実感や所属感を感じることができるときの取り組みを状況に応じて計画、実施をしていきたい。

観点3「健やかな心身の育成」

ア 項目⑪「生徒理解」については、昨年度の生徒評価で直近5年間で最もよい数値となっていた。しかし、今年度は2ポイントほど減少した。これは、コロナ禍の影響で「わからない」と回答をした1・2年生の生徒が増えたことが要因の一つであると考えている。休業期間、学習補充等のためじっくりと個々の生徒と話をする機会の設定が物理的に難しい1年であった。生活日記「みなみ」など様々な方法を用いたり、生徒と共に活動する時間をより大切にしたりするなど、一層の生徒理解に努めていきたい。保護者評価については79.6%とこの3年で10ポイント増加し、昨年度と比較しても2.5ポイント増えている。しかし、15%ほどの割合はマイナス評価をしており、今後も生徒の様子を近くで見守り、不安や悩みに対して早期に相談できるような体制づくりを心がけていく必要がある。また、スクールカウンセラーや心の教室相談員、学生のアイフレンド等の人材を有効活用し、生徒の声をいろいろな立場から拾っていきたい。

観点4「安全な学校づくり」

ア 項目⑬「安全への配慮」については、昨年度よりも若干数値が下がっている。交通マナーの面で、まだまだ改善点が多いのが現状である。特に、自転車通学者の交差点通過時のマナーや学校付近で人が集中する際の公道の使い方が課題である。一般の通行車両や通行者に対して、配慮が足りない様子が見受けられ、思いやり、譲り合いという面を育てていく必要性を感じている。自分の行動について、客観的に見つめ直す機会を設定するなど自分事として考えさせていきたい。

イ 項目⑭「清掃などを通じた教育環境整備」については、生徒、保護者、教職員の評価がどれも過去5年間でもっともよい数値となっている。与えられた場所をこだわりをもって美しくしようとする生徒の様子が多く見られた。ただし、学年によって差が大きい。教職員自ら率先垂範をし、清掃に取り組む姿勢づくりを大切に指導していきたい。また、日頃の取り組みや頑張りを認め、生徒の自己肯定感の向上につながってほしい。

観点5「信頼される学校づくり」

ア 項目⑯「親の相談」について、昨年度より数値を下げた。その要因としては、1年生保護者で「わからない」と回答をした割合が20%程度を占めるまで増えてしまっていたことが大きい。今年度は、コロナウイルス感染症により家庭訪問や学年懇談会、三者懇談などの中止のため、保護者と顔を合わせる機会が少なくなってしまった。特に1年生の保護者にとって、入学という新しい環境のスタートだったにもかかわらず、臨時休業があり不安が多かったことと思う。情報発信を含めて、保護者との連携を大切にし、共に生徒の成長を支援していけるようにしたい。

イ 項目⑳「学校行事参加」については、今年度は8ポイントほど数値を下げている。学校行事や市内大会等を中止や延期、変更とせざるを得ないことが多く、学校の様子を十分に発信したり、生徒の活躍する姿を見てもらう機会を設けたりすることができなかった点が原因となっている。今後は安全を第一としながら、代替となる活動の工夫や生徒の姿を伝える手段の検討など、例年以上に家庭と連携できるよう心がけていきたい。

コロナ禍において、例年通りにはいかない1年となってしまった。特に、「協働的な学び」や「地域社会との連携」など、本校が大切にしている取り組みを計画どおりに実施することが困難であった。一方で、年度当初心配をしていた学習内容については、昨年度のやり残しを含めて、前期期間中実施した学習補充を中心に、当該学年のカリキュラムをきちんと終えることができた。基礎的、基本的な学習内容の定着に力を注ぐことができた1年である。

今後も、生徒、保護者、教員にとって、「通いたくなる学校」「通わせたい学校」「勤めたい学校」となるように、学校評価アンケート結果をもとに改善をしていきたい。まず、安全を第一にしながら、「たくましい心と体を鍛える生徒」「本気で勉強する生徒」「豊かな心を持つ生徒」の育成を目指して、創意ある教育を計画的に実施していきたい。

本校の経営方針にある「さわやかな学校づくり」に近づけるように、教職員が率先垂範し、生徒の姿を身近で見守り、成長を認めながら、自己肯定感が高まるよう支援をしていきたい。

また、本校の課題の一つである確かな学力の育成を目指し、新しい学習指導要領にのっとり、「わかる授業づくり」「認め合える学級づくり」「主体的に学ぶ姿を引き出す授業」を軸に教育活動を推進していきたい。